

B-41 合繊の洗淨による損傷劣化について (VII)

高知大教育 西村久子 吉川せつ ○野津悦

目的 前回までジアセテート，ナイロン6を中心に洗淨過程における損傷劣化の実態につき報告してきたが，今回は電気洗たく機を使用して洗淨プログラムを変えた洗淨方式を4種設定し繰り返した後，主として風合的因子と中心にした損傷劣化の実態を知るため実験を行ったのでその結果を報告する。

方法 試料はジアセテート，ナイロン6に加え絹を対照として用いた。洗淨方式は全自動洗たく機の洗淨プログラムで（注水，洗たく，排水，注水，すすぎ，排水，脱水，注水，すすぎ，排水，脱水，洗たく時間33'7"3）で水流を強弱に変えたニ法と，二槽式洗たく機を用い節水方式として（注水，洗たく，排水，脱水，注水，すすぎ，排水，脱水，注水，すすぎ，排水，脱水，洗たく時間24'24"3）の方式と，水消費型として（注水，洗たく，排水，脱水，注水，オーバーフロー式すすぎ，排水，脱水，洗たく時間24'28"7）のもの4方法で，浴比1:30，高級アルコール系洗剤0.13%，水温（室温）で繰り返し30回の洗淨を行った後，風合の因子としての物理性能として剛軟性，収縮性，防しわ性，ドレープ性や表面反射率の変化をみた。また官能テストにより総合的な風合劣化の状態もみた。

結果 洗淨方式による相異点としては全自動強流式は収縮率や剛軟度に影響を与え，節水式は防しわ性に多くの影響を与える。着色性は絹，ナイロンにみられるが洗淨方式別には顕著な差はない。また絹やアセテートに風合劣化の傾向が強くナイロンに劣化が少い。回数が進むにつれて変動は大となるが必ずしも同じ傾向ではない。